

## シーズのテーマ: クリエイティブ産業の経済学

### 【研究者】

氏名: 後藤 和子(ごとう かずこ)  
 学部: 経済学部  
 学科: 経済学科  
 職階: 教授  
 連絡先: ※下段、お問い合わせ先をご参照ください。

### 【研究の概要】

2000年代以降、政府の知的財産戦略に象徴されるように、文化や知的財産が経済活動に占めるウェイトが大きくなっている。文化領域の財政問題の研究に始まり、都市と文化、イノベーションを促進する税制のインセンティブ、クリエイティブ産業と著作権などの研究を、ヨーロッパの研究者と協力して行ってきた。

主な科学研究費研究の課題は以下の通りであり、次のURLより研究内容の把握が可能である。  
<https://kaken.nii.ac.jp/d/r/00302505.ja.html>

- (1) 基盤研究(C)経済学 2005年—2007年(研究代表者: 後藤和子)  
 「文化政策と産業政策の政策統合による都市経済の再生に関する国際比較研究」
- (2) 2006年度学術振興会・研究者招聘事業(短期)により、オランダ・ライデン大学よりS.Hemels講師(現在エラスムス大学教授)を招請し、「寄付税制のタックス・インセンティブと創造的産業の発展に関する国際比較研究」をテーマに3週間の共同研究を行った。
- (3) 基盤研究(C)経済学 2008年—2011年(研究代表者: 後藤和子)  
 「文化領域へのタックス・インセンティブの国際比較—創造性と都市経済へのインパクト」
- (4) 基盤研究(C)経済学 2011年—2013年(研究代表者: 後藤和子)  
 「クリエイティブ産業と著作権に関する研究—産業組織と契約に着目して」
- (5) 挑戦的萌芽研究 2014年—2016年(研究代表者: 後藤和子)  
 「グローバル化の中の文化観光: クリエイティブ産業と観光の政策統合に関する国際比較」

### 【研究の特長・従来技術との比較】

財政や税制、著作権等の制度と経済の関係を分析するのが、研究の特徴である。

### 【研究の状況】



### 【課題、今後の方向性】

国際的な場で、共同研究等をさらに発展させることが課題である。また、研究や教育を通して、地域問題や政策に多少なりとも貢献できればと思う。そのため、現在、内閣府の知的財産戦略に関する委員等も務めている。

### 【用途・効果】

国や地方自治体のクリエイティブ産業政策の立案・評価等。  
 文化による地域活性化の政策立案と検証等。  
 知的財産や税制等の経済学的視点からの分析等。

### 【関連資料・特許・文献・参考事項】

後藤和子著『クリエイティブ産業の経済学: 契約・著作権・税制のインセンティブ設計』(有斐閣, 2013年)  
 Daniels, W. P. eds. *New economic spaces in Asian cities: From industrial restructuring to the cultural turn*, Routledge, 2012(分担執筆)